

＜子ども・若者・子育て支援部会 各委員の評価まとめ＞

①地域子ども・子育て支援事業

評価の記載について：（ ）内は人数、  
 順調である=A、 どちらかといえば順調である=B  
 あまり順調でない=C、 順調でない=D

**1 利用者支援事業**

全体評価結果	「順調である」
評価	意見等
A (10人) B (3人) C (0人) D (0人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子育て中の親子や妊産婦にとって重要な取り組みが、丁寧に実施されていると感じる。今後も、幅広い周知とセットで実施されることが望ましい。</li> <li>● どこにもつながっていない親子に対する取り組みも事業の中にも含めるべきである。</li> <li>● 市内4ヶ所に子育て支援センターがあることや、産前・産後サポート事業があることを初めて知った。このような情報が若者にもっと周知されることが望ましい。</li> <li>● 子育て中に困った時に相談できる場所があることは、非常に助かるものである。オンラインでも気軽に相談出来る仕組み（LINE等によるQ&amp;Aなど）があれば、若い世代も利用しやすいのではないかと感じる。</li> <li>● 育児をしている人々が、気軽に相談できる場所があったり、サポートを受けられたりするのために、非常に大切な取り組みである。</li> </ul>

＜子ども・若者・子育て支援部会 各委員の評価まとめ＞

**2 地域子育て支援拠点事業（地域子育て支援センター）**

全体評価結果	「どちらかといえば順調である」
評価	意見等
<p>A（6人） B（6人） C（1人） D（0人）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 利用者数は目標に達していないが、量的なキャパは確保されている。</li> <li>● 少子化や共働き世帯の増加で利用者は減っているとのことであるが、まだまだ知られていない現状もあると思う。最近の情報入手方法に関する聴き取り調査では、宮崎市の公式LINEからの入手が断トツ1位であった。施設の利用方法やイベント情報などをより定期的に広報することが、利用者増にもつながる。</li> <li>● 子育て支援において重要な役割を担っている。今後、利用促進を図る上では、既に実施されている可能性もあるが、小児科や保育園、幼稚園などを通じた広報も可能である。</li> <li>● 実績を増やすには周知を図ることが必要である。各小中学校のマチコミメールを活用してはどうか。</li> <li>● 目標値に達していない箇所がほとんどであったため、改善が必要であると感じる。しかし、全く目標に届いていない訳ではないので、少しの改善で良い。</li> <li>● 子どもを遊ばせながら他の保護者と話せる貴重な場所であり、息抜きにもなるため、自身も子どもが小さい時によく活用した。現在は仕事をしているため、なかなか利用することがなくなった。令和7年度以降の取組方針にも記載されている通り、共働きや日曜日に仕事がある家庭に対して、土日開所の場所を増設し、その周知を行うことが望ましい。</li> <li>● これは非常に大切な取り組みであると考える。より多くの保護者がこの取り組みについて知り、気軽に利用できるようになることが望ましい。</li> </ul>

**5 養育支援訪問事業・子どもを守る地域ネットワーク機能強化事業**

全体評価結果	「どちらかといえば順調である」
評価	意見等
<p>A (5人) B (7人) C (1人) D (0人)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 機能強化のため努力されていることは評価されるが、現実的にはネットワークではない民間団体や個人がボランティアで支援している実態があるため、C評価とした。</li> <li>● 非常に重要な取り組みを実施している。令和7年度以降の取組方針に記載されていることが実施されることで、さらに充実した事業になるのではないかと期待される。</li> <li>● 児童虐待の連携については、市と児童相談所に加えて、防止の啓発等を含めた保護者向けのチラシ配付等、学校とも連携することが望まれる。</li> <li>● 前年度よりも実績が上がっているため、順調であると感じられる。</li> <li>● 地域で子どもを見守る体制は非常にありがたいものである。ネットワークの仕組みなどを分かりやすく発信したり、参加や相談がしやすい環境づくりを行ったりすることが望ましい。</li> <li>● 外部から家庭の様子がなかなか見えづらい中で、支援を必要とする家庭の早期発見のためにも、訪問をすることは非常に大切な取り組みである。</li> </ul>

## 6 子育て短期支援事業（ショートステイ）

全体評価結果	「順調である」
評価	意見等
A（12人） B（1人） C（0人） D（0人）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ショートステイの利用により、虐待予防の対策にもつながると考えている。昨年度よりも倍以上の利用件数があったということであり、今後「里親」の活用も期待する。レスパイトとしての利用も進めていくことも必要である。</li> <li>● 目標値を大幅に上回っており、十分な取り組みになっているのではないかと思った。今後、利用希望者の増加に少しずつ対応できると、さらに充実するのではないかと思う。</li> <li>● 過不足がR6はプラスに転じていることをどう評価するかは難しいところである。子どもの安全安心の為に、引き続き受け入れ先の確保に努めていただきたい。</li> <li>● 里親の追加は期待が大きい。</li> <li>● R3～R5まで目標に達していなかったが、R6は達成できていて、良かったと感じた。</li> <li>● 制度は知っていたが、利用の仕方やどこに問い合わせするのかは知らなかった。利用方法の周知強化をお願いしたい。</li> <li>● このような取り組みについて初めて知った。利用の希望も多く、一時的な養育・保護を必要とされている方がいることを知った。保護者の方の体調面がすぐれない状態だと、保護者自身の子育てへの不安もより高まるのではないかと思うため、とても大切な事業だと思った。</li> </ul>

＜子ども・若者・子育て支援部会 各委員の評価まとめ＞

**7 子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター）**

全体評価結果	「順調である」
評価	意見等
<p>A（9人） B（4人） C（0人） D（0人）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 一人が複数以上の対応を行っていることに感謝。援助会員数も増加傾向にあるとのことなので、これからも広報をよろしくお願ひしたい。</li> <li>● 利用件数も増えている中で、援助会員の増員は必須である。かなり工夫して養成講座等もされているとは思いますが、今後援助会員の報酬料金を上げていくことも視野に入れていかなければいけないのではないかとと思われる。</li> <li>● 援助会員の確保のため、広報の努力はされているとは思いますが、さらに多くの方に届くような工夫をお願いする。</li> <li>● 非常に良い取り組みであると思った。この事業を広く知ってもらえると、助かる家庭が増えるのではないかとと思われる。</li> <li>● 保護者にとってありがたいサポートの取り組みである。今後更なる周知と費用面での支援が進むと良い。</li> <li>● 「ファミサポ」は働く者にとって助かるものであるため、援助会員が増えることを願ひたい。</li> <li>● 目標よりも実績の方が多くなっている地域ばかりで良いと感じた。</li> <li>● ファミリーサポートという存在は知っていたが、どのような方がサポートしてくれるのだろうかという不安の方が大きく、まだ利用した事がない。どのような場合に利用していいかもわからないため、もっと周知していただき、気軽に活用出来たら、子育てに余裕も出来て、保護者のゆとりに繋がっていき、子どもたちにも還元出来ていくのではないかとと思う。</li> <li>● とても大切な取り組みであると思った。より多くの保護者がこの取り組みについて知り、利用しやすくなるといいと思った。</li> </ul>

＜子ども・若者・子育て支援部会 各委員の評価まとめ＞

**11 放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）**

全体評価結果	「順調である」
評価	意見等
<p>A（10人） B（3人） C（0人） D（0人）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 更なる学校との連携を密にとってもらうとともに、学校におかれても、教育と福祉を区別することなく、自らの学校の児童であることを第一に考えていただけるとありがたい。</li> <li>● 担い手の確保はどこも大変である。大学生の活用もしているが、厳しい面もある（学生を指導しながら子どもを見守ることも多いため、手間がかかるとの話もある）。また、賃金が上がることで、扶養の範囲内での勤務となるとさらに人を増やす必要があるため、一苦勞である。逆に、フルタイムとしての雇用を考えることで、人が定着していくのではと考えているが、それだけの予算がないため、難しい状況である。</li> <li>● 場所の確保とも関係するとは思うが、今後、待機児童対策を推進し、少しずつでも利用したい家庭が利用できるようになると良い。</li> <li>● 放課後の子どもの過ごせる場として大変ありがたいものである。一方で学校によっては、教室を児童クラブとして提供することで空き教室がなくなったり、新たな通級指導教室を開けない状況がある。令和7年度以降の取組方針に、施設の拡充を入れることを検討してほしい。</li> <li>● 子どもたちが授業終了後や長期休みなど、私自身、安心して活用させていただいており、本当に助かっている。ただ、周りの保護者からは、地域によって利用できる学年に差があり、利用をあきらめている家庭もあると聞いている。待機児童の対応も引き続きお願いしたい。</li> <li>● 保護者の方が安心して働くことや、子どもが寂しさを感じる時間を軽減したり安全の中で体験活動や遊びなど様々な経験をしたりすることができるようにするためにも、とても大切な事業であると思った。待機児童の数がゼロになってほしい。</li> </ul>

## ②推進施策

**推進施策2－(1)：地域における子育て支援の推進**

全体評価結果	「どちらかといえば順調である」
評価	意見等
A（4人） B（6人） C（3人） D（0人）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市の広報を通して事業の案内をされているとのことである。今後、利用者数や相談件数を増やす上では、（既に実施されているかもしれないが）例えば、小児科、幼稚園や保育園、小学校などを通した案内も1つの方法である。</li> <li>● 子どもの数が減ることは予想できていたことに対して、目標値を上げていること、また令和4年度から令和5年度にかけて実績も減っていることから、次後の目標値の立て方や、そこに達するための具体策を今と変えていく必要がある。</li> <li>● 利用者増にはまず周知が大切である。利用者の声や手続きの仕方等、支援を受けてみたいという意識を更に高めていく必要がある。</li> <li>● 最終目標に達していないため、改善が必要である。</li> <li>● 市内各所に支援センターが設置されており、気軽に立ち寄れる環境が整っていて、利用しやすい。また、地域全体で子育てしていく方針も素敵である。今後は、共働き世帯など様々な多くの家庭が、より身近に利用できることが望ましい。</li> <li>● より多くの方々にこの取り組みを知っていただき、育児をしている方々が気軽に利用できる環境を整えることが重要である。</li> </ul>

＜子ども・若者・子育て支援部会 各委員の評価まとめ＞

## 推進施策2-(2)：ワーク・ライフ・バランスの推進

全体評価結果	「どちらかといえば順調である」
評価	意見等
<p>A (4人) B (7人) C (2人) D (0人)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 企業数は18,092 (H28統計) を数えるが、加盟目標が25というのは少なすぎるのではないか。</li> <li>● 今後、宮崎市ワークバランス企業同盟加盟事業者数を増やしていく方法を検討できると良い。</li> <li>● 2-(1)と同様、延長保育の利用者数が減少傾向にある中、目標値を上げていることの意図するところが、たくさん働けるようにという目的だとすれば、ここが減少していることと、利用する人のニーズのミスマッチが起きているのではないか。少子化の影響だとすれば、目標値の考え方を考えることも必要である。</li> <li>● ワーク・ライフ・バランスの視点を取り入れた働き方改革はとても大切である。保育サービスや企業への働きかけは引き続き重ねていくべきである。</li> <li>● ワークライフバランス企業同盟加盟企業所がもう少し増えると働きながらの子育てが安心できると思う。</li> <li>● 就労支援の一環として、とても助かっている家庭は多いと思う。また、病児保育や回復期の子どもが在園のところで利用できると、保護者も安心して利用できるのではないか。</li> <li>● 育児をしている会社や会社の社長、上司の方から、こういった取り組みについて社員のみなさんに周知をすることも大切である。</li> </ul>

**推進施策2－(3)：ひとり親家庭の自立支援**

全体評価結果	「順調である」
評価	意見等
<p>A (12人) B (1人) C (0人) D (0人)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 非常に重要な取り組みである。学習支援事業参加者数も伸びているということなので、今後も希望者のニーズに応じていけると良い。</li> <li>● ひとり親家庭の子どもがさみしい思いをしないよう、この施策は今後も大切にしていってほしい。ボランティアによる学習支援等は、教育委員会や学校とも連携を深めていくことが望ましい。</li> <li>● ひとり親で頑張っている人達を沢山みてきているが、本当に大変な人と、大丈夫な人と様々である。現況届時の呼びかけや説明には限界がある。学習支援は非常に喜ばれている。</li> <li>● 支援相談件数が目標を超えており、非常にニーズがあるということがわかった。これからも、そのニーズに応じていけると良い。</li> <li>● 自立に向けて、いろいろな支援を細やかにやっていると感じる。知らない家庭も多くあるのではないかとと思われるため、周知を工夫できると良い。</li> <li>● このような取り組みが行われていることが、支援を必要としている方々に情報としてしっかり届くことが望ましい。また、支援を受けることへのハードルが高くなりすぎないように、支援の受け方の仕組みなどが分かりやすい情報として届けられると良い。</li> </ul>

### **推進施策3 – (1) : 安全・安心な活動場所など、子どもの健全な発達のための良質な環境整備**

全体評価結果	「順調である」
評価	意見等
<p>A (8人) B (4人) C (1人) D (0人)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 熱中症アラートを考えると、利用児童の命を守るという意味ではプール閉鎖もやむを得ない。</li> <li>● 児童プール事業の目的（親子間の交流など）はとても良いと思った。今後、老朽化や熱中症対策で、事業継続が難しくなる可能性も考えられる。他の形で目的を達成する方法を考えるのも良い。</li> <li>● 公園の整備や遊具などの維持管理と共に、学校における遊具の新設にも力を入れていただきたい。</li> <li>● 地域での見守りが働く親の安心に繋がっている。</li> <li>● 児童センターは、児童クラブなどに通っていない子どもたちにとって、とてもありがたい場である。平日にも休館日がある所もあるため、可能であれば開館していただくと、親も安心できるであろう。また、児童センターでの様々な講座や行事などの内容が盛りだくさんでありがたい。</li> <li>● 子ども達が公園などの自然に囲まれた環境で遊ぶことのできる場が増えると良いと思う。また、その際、子ども達の身の安全を見守れるようなサポートも必要である。</li> </ul>

**推進施策3－(2)：放課後の子どもの居場所の確保**

全体評価結果	「どちらかといえば順調である」
評価	意見等
<p>A (3人) B (5人) C (5人) D (0人)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 放課後児童クラブ（登録制の預かり）と放課後子ども教室（自由参加）の連携は、難しいと考える。</li> <li>● 様々な努力がなされているとは思いますが、待機児童数ゼロを目指し、更なる工夫が求められるべきである。</li> <li>● ①の事業11の箇所で記述したと重複するが、放課後児童クラブに関しては、今後、場所の確保や待機児童対策を推進していけると良いと思う。</li> <li>● 待機児童数が増えている現状については地域差があると思われるが、場所の確保だけでなく、民間の児童クラブとの連携、児童館との連携、そして通いやすい工夫といった整備と、その周知が必要である。</li> <li>● 限られた支援員で子ども達の支援がなされている実態があるのかもしれない。また、学校によっては余裕教室がない場合もあるため、施設面での予算確保も進めるべきである。</li> <li>● 放課後児童クラブが増加しているにもかかわらず待機児童も増えており、学校の余裕教室や保育所等の活用が望まれる状況である。</li> <li>● 児童クラブの待機児童がますます増えていることから、何らかの対策が必要であると感じる。</li> <li>● 地域の方との交流を増やすことで顔見知りの関係となり、困った時に助け合える関係性を構築できると良いと思う。</li> <li>● 放課後や土曜日などに子ども達が過ごす場へ大学生等がボランティアとして参加し、支援員等の指導の下で子どもと一緒に遊んだり、子どもの安全を見守ったりすることも可能なのではないかとと思う。</li> </ul>

**推進施策5 – (1) : 子どもの貧困対策の推進**

全体評価結果	「どちらかといえば順調である」
評価	意見等
<p>A (3人) B (8人) C (2人) D (0人)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 対策の推進についてはよくやっただいて理解しているが、あえて、子どもの貧困の状況は改善されていないのではないかという危惧の念もあり、C評価とした。</li> <li>● 家庭教育学級の実施については、平日の日中は難しいと考える。また、届けたい人に届かない現状もあると思われる。しかし、家庭教育の学びの必要性はあるため、週末にイベントと組み合わせたり、普段出て来られない方をどう参加させるか、などの工夫が必要である。</li> <li>● 家庭教育学級については非常に重要な取り組みであると思う。対面での受講が効果的であると思うが、一部はオンデマンドでの受講を可能にするなどすれば、希望者が受講しやすくなるのではないか。</li> <li>● 児童虐待の発生予防が特に大切である。対応の手引き、保護者向け児童虐待防止等パンフレット等、学校等と連携しながら進めていくべきである。</li> <li>● 地域の行事への参加率が低いのは、部活や習い事が多い為ではないか。</li> <li>● 経済的にも苦しい家庭にも、学びや体験の機会が保障されているとは感じたが、情報が必要な家庭に届きにくく、支援を知らないまま利用できないこともあるのではないか。</li> <li>● 学校はこれらの情報を知ること、学校での保護者と子どもへのサポートやかかわり等をより充実したものにできるかもしれないと思う。</li> </ul>

**推進施策5-(2)：虐待などのない社会づくりに向けた取組の推進**

全体評価結果	「どちらかといえば順調である」
評価	意見等
<p>A (4人) B (6人) C (3人) D (0人)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 虐待0に向けて様々な対策がなされているのは理解しているが、実際に子どもたちの権利や生命が脅かされている状況を踏まえると、さらなる努力が求められる。子どもの貧困（世帯の貧困）と虐待には因果関係があるのではないかと考えられ、そのあたりの分析と対策が必要である。</li> <li>● 出前講座などをさらに実施する必要がある。個別チラシを作成して広報をすべきである。また、児童館や児童クラブも学校との連携が必要であるため、会議でも言及があったが、フローチャートなどを作成してもらえると大変助かる。</li> <li>● 虐待防止啓発のためにも、出前講座の依頼を待つのではなく、こちらから出向いてお願いする姿勢も必要である。</li> <li>● 出前講座の依頼は減少しているものの、様々な場での研修や広報活動を行っている点は良い。多くの方に知ってもらうことがまずは重要であるため、今後も継続することが望まれる。</li> <li>● 児童虐待の発生予防等に係る市職員向けの研修会は、とても良い取り組みである。加えて、子どもや保護者に日常的に接する学校職員向けの研修も大切である。</li> <li>● 児童虐待防止は難しい。</li> <li>● 学校、園、地域が連携して気づく体制を作っており、孤立防止につながっていると感じられる。相談することが悪ではないという意識を、さらに広めていけると良い。</li> <li>● 体罰によらない子育ての推進について、大学生も対象となっている点が良い。虐待は早期発見が難しいからこそ、教師や地域の人など、より多くの人に向けて啓発活動を行うことが大切である。また、虐待の疑いを抱いたときに気軽に相談できる場所についても、同時に周知されると良い。</li> </ul>